

平成30年度の教育活動等に対する学校評価書

平成31年3月31日

学校法人相愛学園 焼津豊田幼稚園長 佐野正子

” 学校関係者評価委員長 杉本清美



- 1 幼稚園の教育理念** 建学の精神 『あかるく こころゆたかに』
- 教育目標
- 1 じょうぶなからだに
 - 2 いのちをたいせつに（思いやりのある子に）
 - 3 やる気のある子に
 - 4 よく考える子に

2 本年度の重点目標

- 幼児の実態を踏まえながら、教育内容や環境構成のさらなる改善をしていく中で幼児一人一人の育ちを丁寧にとらえる。
- 年間を通じて教育計画全体を精選することで、幼児にとって意味のある生活作りを心掛けていく。

3 自己評価結果とそれに対する学校関係者評価結果

（評点 A. 十分に成果があった B. 成果があった C. 少し成果があった D. 成果がない）

評価項目	自己評価		学校関係者評価	
	評点	幼稚園としての視点	評点	意見・評価
教育活動や行事の実施にあたり、幼児の発達に即した内容や取り組みに及び環境となっているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度においても定例の職員会議の中で、月の指導計画や保育内容、ねらいなどについて相互理解を深めるよう努力してきた。 ・保育行事ごとの個々、学年全体での省察を行うと共に、次に繋がるよう改善を心掛けた。 ・生活の節目を終えるごと保護者アンケートを実施し、幼児の育ちへの感想や行事に対する意見の聴取を行ってきた。 	A	<p>教育方針やねらいに沿った実践による幼児の育ちが保育成果として、保護者に評価されている。</p> <p>また、行事等の保護者アンケートをとることで、保護者の意見を取り入れながら改善していこうとする姿勢は、相互理解に向けて努力していると考えられる。子どもをまんなかに教職員と保護者が手を取り合っていくことを期待する。</p>
幼児一人一人の内面を育むよう個々に応じた指導、援助が考えられているか。		<ul style="list-style-type: none"> ・幼児一人一人の見とりを大切にし、適切な指導援助が行えるように教職員間で共通理解を図った。 ・一人一人の思いや姿に合 		<ul style="list-style-type: none"> ・教職員間の話し合いの中で目指す方向を明確にし共通理解しながら個別支援にも力を注いでいる様子が伝わってくる。一人一

	B	<p>わせながら、その子らしさを引き出すように心掛けた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導援助が必要な幼児については個別の指導計画を立案してサポートをした。市の巡回相談や専門のカウンセラーによる観察・指導を受け役立っている。 	B	<p>人の成長の詳細を追う努力は大切なこと。さらに一歩進んで、その子の思いや保護者の思いをくみ取って育てていく努力を今後も地道に続けていってほしいと思う。</p>
<p>幼児が安心して生活できる施設設備環境の構築に配慮しているか。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・セキュリティの徹底、学校保健安全計画に基づく防災避難訓練の定期実施や、保健衛生指導・食育までトータルな視野で幼児の健やかな成長を守るための努力を怠らないよう努力してきた。 ・園庭遊具などの安全点検管理を励行し、事故を未然に防ぐように配慮してきたが、怪我の発生もあり、幼児自身の安全に関する意識を育てることの大切さを痛感した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・園内においてはセキュリティの面をはじめ遊具点検など、安心安全の環境に配慮がなされている。日々の生活の中で常に教職員が遊具チェックを心掛けていることが評価できる。これからは“自分の身は自分で守る”という子ども達の安全指導にも力を入れ自己防衛力等がつくような遊びの工夫も必要となってくるのではないかな。
<p>地域子育て支援の拠点としての機能が発揮されているか</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に園庭開放事業ならびに未就園児親子を対象とした“あそびの会”を展開し、幼稚園の環境の有効利用を図った。 ・地域の活動に積極的に参加していくよう働きかけた。 ・県、市行政との定期的な意見交換を推進し、幼児教育の重要性と家庭支援のあり方についての啓蒙を進めてきた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページによる情報公開・園庭開放事業や未就園児への親子教室（つくしんぼクラブ）などを通し、相談事業の充実を図ることは大切なこと。地元根付いた焼津豊田幼稚園のPR活動の一環として何か取り組むことも良いと思う。園により多く足を運んでいただくことで、子育て支援の拠点となっていくと考えられる。気軽に利用できるための雰囲気、環境作りにより一層の配慮を望む。

○ 自己評価、学校関係者評価を経て、31年度への課題として以下の点を挙げました。

- 1 教育課程と幼児の育ちを照らし合わせながら振り返りをし、幼稚園教育要領に示されている「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」に沿って学び、教職員間の共通理解を深めていく。
- 2 保育の質の向上、教職員としての人間性の向上に向けて、自己研鑽に務める。
- 3 ベテランと若手が教え合い学び合う時間を大切にし、明るく元気でまとまりのある教職員集団を目指す。

以 上